

■ 学校の共通目標

授業づくり	重点	主体的な児童の活動の推進の場と機会の設定を行う。	中間評価	主体的な学習になるように、課題設定や授業のゴールを明確にするなど、授業の導入の仕方を工夫してきた。	最終評価	
環境づくり		友達とのかかわりの中で児童が自ら考え、表現する指導の工夫を図る。		深い学びを目指して、児童が考えたことを表現できるように、5，6年生を中心にファシリテーショングラフィックの研修会を実施した。また、ICT機器やミニホワイトボードなどを活用しながら学び合えるように教育環境を整備した。		

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）	
	国語	・4月より平仮名を学習し、読み書きは終了している。 ・9～10月に片仮名を学習し、現在漢字の学習は、9月から始まっている。 ・短い文を進んで書く児童が多く、習った片仮名や漢字を、すぐに使っている。 ・図書の学習に興味を持ち、たくさんの絵本を読み、読み聞かせを楽しんでいる。	・片仮名、漢字は、短い期間での学習で定着していない児童が多い。漢字についても、基本の「はね、はらい、とめ」「書き順」について十分に定着していない。 ・書くことに意欲をもって取り組む児童が多いが、習った平仮名・片仮名、漢字に自信をもって使おうとしているが、間違った使い方をしてしまうことが多い。	・語彙を増やすためのプリント練習や漢字ドリルを、繰り返し行い、正しい知識を身に付ける。 ・校内で体験したことの感想や返事のお礼の手紙書くように習慣付ける。 ・日記を書く取り組みをさせ、書けない児童には会話より言葉を引き出す支援を行い、楽しく取り組めるようにする。 ・全文を書き写すなど書く場面を設定し、確実な定着を図る		
	算数	・時計の読み方、かさや長さを比べる学習などは、体験させることで定着してきた。 ・繰り上がりのない足し算と繰り下がりのない引き算については理解している。 ・繰り上がりのある足し算と繰り下がりのある引き算は、理解に時間がかかっている。	・繰り上がりのある足し算や繰り下がりのある引き算の仕方を十分理解し、早く計算できるようにする必要がある。 ・単元を問わず、その答えになった理由がうまく説明できないことがある。	・プリント練習やカード練習を繰り返し、より素早く計算ができるように日々継続し、十分な定着を図る。 ・単元を問わず、算数で使う言葉や既習の事柄を使って、考え方をペアやグループや全体で説明できるようにする。		
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
2	国語	学平仮名や片仮名の読み書きはほとんどの児童が習得できている。一方で、文章の中での句読点に苦手意識をもつ児童が多い。 学文章を書くことに意欲的な児童が多い。より書く能力を高めていくため、語彙力を増やしたり、接続詞や指示語に着目したりする意識を高める必要がある。	・片仮名を文章の中で使える力を身に付けることが課題である。 ・語彙力を高めることが課題である。語彙の量を増やすことで、文章に深まりをもたせる。また順序立てた文章を書くことが課題である。	・片仮名を使った文章を積極的に書き、片仮名を使うことに慣れていく。片仮名プリントを活用し、片仮名を使い、より多くの単語を使えるようにする。 ・読書活動を推進していく。読書量を増やし、語彙を増やしていく。また、授業の中で一つの単語の理解を深め課題を改善していく。	・授業で音読をしたり、プリントを活用したりすることに加えて、読書活動を生かし、単語を覚えて文章の中で活用できるようにする。加えて、書く活動を多く取り入れていく。 ・定期的に読書の時間を確保している。また、学校図書館支援員の方と連携し、様々なジャンルの読書に取り組みさせ、言語表現をつかませる。	
	算数	学児童の計算の正確さ等二極化が見られる。繰り上がりのある足し算や繰り下がりのある引き算に苦手意識をもつ児童もいる。 学文章問題を苦手とする児童がいる。文章から問題を読み解いて、考える力に課題がある児童もいる。	・計算に時間がかかる児童がいる。頭の中で10の分割を繰り返し行う等、10の組成意識し計算速度を上げることが必要である。 ・足し算とはどのような計算か、引き算はどのような計算かをもう一度確認し、読み解く力を付ける。	・10の組成を意識し、繰り上がり繰り下がりの苦手意識をなくしていく。また、100マス計算などを取り入れて計算の速度を上げる。 ・文章を読み込むことから始める。全体でカギとなる言葉に着目したり、線を引いたりして文章問題の理解を深める。 ・自力解決の時間ではどのように立式するのかを考えたり、友達の意見を聞いて考え方を広めたりして、様々な考え方に触れさせる。	・定期的に授業や家庭学習で計算練習を取り入れている。1学期に比べると計算速度も上がってきている。2学期には、かけ算九九も覚えるので、繰り返しの計算練習を定期的に行っていく。 ・式の意味を説明したり、鍵となる言葉に着目したり学習を継続して行っている。また、演算決定の理由も説明できるように指導していく。 ・自力解決の時間を確保し、多様な考え方を理解できるようになってきている。今後も多様な意見が出るような、学習展開を工夫していく。	
3	国語	調物語の読み取りの力が十分でない場合がある。話を正確に聞き取ることに慣れていない児童も見られる。 学必要な事柄を聞き取り、言葉で伝えたり書き表したりする学習が十分身につけていない。 調漢字学習や漢字に対する興味関心とともに理解も高い。既習学習への取り組みは定着している。	・文章の中からキーワードを探したり、答えの部分を見つけたりする方法が理解できていない。 ・話を聞いて必要なことは何かを聞き取る力を付ける必要がある。 ・声掛けがなくとも、とめ、はね、はらいを意識し平仮名や漢字を丁寧に書けるようにする。	・話す内容を精選したり、短局的確な指示を出したりし、聞くことへの意識を高める。 ・毎日、音読を宿題とし文章に触れる場面を増やしていく。 ・友達の考えを説明する場면을授業展開で多く取り入れていく。 ・児童のノートに目を通して、とめ、はね、はらいがしっかりとできているか細かく目を通して声掛けを続け、丁寧に書くことを意識させる。	・ブックトークなどの学習を通して、すすんで自分の考えを伝えようとする児童が増えてきた。また、児童同士でも話を聞き合い質問したり意見を交わしたりする姿も見られるようになった。 ・4月と比べ、とめ、はね、はらいを正しく書く意識は、低くなっていると感じる。正しい書き順で書いている児童や丁寧に書いている児童をその場で褒めることで、より多くの児童が丁寧に書くことを意識できるように努める。	

	算数	調平均正答率は区の平均を上回っている。特に「数と計算」の領域においては平均正答率が8割を超えている。 調関心・意欲・態度の結果にやや低さが見られる。 学九九が暗記で十分ではない場合があり、3年生の学習内容につまずきが見られる児童がいる。	九九は算数の学習の基本であるので、確実に全員の覚えさせる必要がある。また、関心・意欲を向上させるような課題や活動を設定していく。	九九は算数の学習の基本であるので、休み時間や授業の初めの5分間などを活用し必ず定着させる。また、算数の学習内容と生活とのつながりを体感できるような課題を設定することで学習に興味や関心を高められるよう工夫していく。	九九が定着していない児童に関しては、給食の準備時間を使い、繰り返し学習を行ってきたため、少しずつ成果が見られるようになった。一方、定着していない児童も見られるため、引き続き授業等で繰り返し取り組ませる。少人数で学習することで、苦手意識を抱いている児童も意欲的に活動している。	
4	国語	調物語の読み取りでは、二極化がみられる。 学文章を書くことが得意な児童と苦手とする児童の二極化がみられる。例文を用意するなど個別に支援していく必要がある。	段落相互の関係を読み取る力や自分の考えについて筋道を立ててまとめたり、発表して広めたりする力に課題がある。	段落ごとに要点をまとめる活動を通して、相互関係の理解を深める。また、考えをまとめる学習では、例文や友達のよさを広めるなどして経験を積ませる。	小見出しを付けたり、登場人物の心情を読み取る活動を重ねてきたことで、自分の考えをもてる児童が増えてきた。考えを交流する場面では、グループや全体など学習形態の工夫を行い、自他の考えを比較する経験を積ませる。	
	算数	調平均正答率は区の平均とほぼ同じである。特に図形領域では区の平均を9%上回っている 調得点分布図では中間層が多い、学習をリードする上位の児童を育てていく必要がある。 学思考を深めるような課題よりも、反復学習を好む児童が多い。	関心・意欲は高いので思考を深めるような課題に粘り強く取り組める力を養う必要がある。また学習内容の定着をより確実にしていく必要がある。	解決方法が何通りもある課題やプロジェクト型の学習内容を取り入れ、褒めながら児童が既習事項を活かして思考を深められるよう工夫する。	課題解決場面では、既習事項を活かして思考を深めようとする児童が増えてきた。発展問題に取り組ませるなど意欲を高める課題設定の工夫を行う。一方で、既習事項の定着が不十分な児童も見られる。復習問題に取り組ませ、「できる」経験を積み重ねる。	
5	国語	調 文章の構成「主語」や登場人物の心情の読み取りが、新宿区の平均より下回っている。 調「話し合いの内容を聞き取り」や物語文の場面の様子の読み取りが新宿区の平均より上回っている。 学「話す」「聞く」の領域で活発な活動が見られる	文章の構成や表現に着目し、注意して文章を読む力が十分でない。語彙の低さも見られ、思いを効果的に言葉で表すこととともに、筋道を立てて表現することにもやや課題が見られる。	文章の一つ一つの言葉に注目させて、筆者や作者の意図を考える経験を多く設けさせる。意味調べを行わせ、語彙を増やし、文章を書くときや話をするときなど、相手により良く伝えることを意識させる。	語彙が増えたことにより、表現の幅が広がり、深い読みができるようになってきている。授業で児童間の対話をする活動を繰り返し、さらに多様なものの捉え方や考え方を身に付けさせる。	
	算数	調「数量関係」「図形」で全国の平均を下回っている。 調「数と計算」の領域においては区の平均を3.6ポイント上回っている。 学学習に対する意欲が高く、既習事項を活かして問題を解決しようという意欲が見られる	「数量関係」「図形」領域の復習と習熟を図る。	生活に即した課題を設定することで「数量関係」を具体的に把握できるよう工夫する。また、「図形」においては用語について習熟させる。	実感を伴う数値の扱いや計算などを経験させる活動を繰り返してきたことで、イメージをもちながら問題に取り組む児童が増えてきた。立式や見当は正確さが増してきているので、計算でつまづかないように、基礎的な計算を反復させていく。	
6	国語	調昨年度に比べ活用する力が4ポイントも上がった。しかし、物語や説明文を読み取る力が区の平均より5.5ポイントも低い。 学学習に対する意欲は高い。しかし、学習の入り口でつまづき意欲を失う児童もいるので、導入の工夫が必要である。	物語や説明文を読み取る力が弱い。筆者の考えに対する自分の考えを書く問題などは深く読み取れず、表面的な考えが多い。深く読み取り、文章の中心となる部分をとらえていく力を伸ばしていくことが課題である。	読み取りの力を伸ばすために、今後も継続して多くの文章に触れさせる機会を設けるなどの対策をしていく必要がある。	物語の読み取りを深く追求する授業を展開した。叙述に即しながら登場人物の気持ちや情景を読み取ることができてきている。読むことに興味をもち、主体的に学んでいけるように本と触れ合う機会を意図的に作り、読書の経験を増やしながら、豊かな情操と読み取りの力を身に付けさせる。	
	算数	調平均正答率は区の平均をやや下回っているが、関心意欲態度のポイントは区平均を上回っている。 調「数と計算」の領域において低さが見られる。 学ワークテストの状況や提出される課題を見ると学力の二極化が見られる。	関心・意欲・態度は高いものの、それが学力の定着や向上につながっていない状況である。特に、計算領域では計算方法は理解しているにもかかわらずケアレスミスをしている児童が多く見られた。根気強く、正確に解き進める力を身に付けさせたい。また、既習内容の理解が十分でない児童も見られる。習熟度別や個々の課題学習を生かして、つまづきを解消する必要がある。	引き続き、児童が興味・関心をもつ課題や活動の設定を行うと共に、学習内容の定着を図るための家庭学習や反復学習に取り組ませる。また、計算領域については休み時間などを活用し個別に対応したり、習熟度の程度に応じた学習を展開することで、達成感を味わわせたり、根気強く計算し続ける態度を養うことができるよう励ましたりする。	生活に即した場面の学習課題を設定することで既習内容を活用し課題を解決する機会を設けた。また、児童相互で教え合う姿が見られるようになり、学習が深まる様子が見られるようになっている。各単元ごとに、フォローアップワークシートや練習プリントを活用し、習熟を図っていく。	
音楽	・全学年、歌唱も楽器の演奏についても、意欲的に取り組もうとする様子が見られる。 ・演奏することは好きだが、曲想に合った表現をするための技能はまだ不十分である。		・楽しく音楽とかかわる活動を通して、声の出し方や楽器の演奏の仕方等、音楽の基盤となる能力を経験的に身に付けるようにする。 ・小グループでの活動や演奏発表の場を設定し、一人一人が楽曲の曲想や構成について意見を持ち、より良い演奏を目指すようにする。	・演奏するために必要な技能を学年に応じて丁寧に指導する。 ・小グループでの活動を通して、友達と音を合わせる楽しさを十分に味わわせ、友達との関わりを大切にしながら、音楽について意見を交わし、自分の演奏に生かせるようにする。	・校内音楽学習発表会に向けて、全学年、発達段階に応じた内容で、木琴・鉄琴・打楽器を取り入れた合奏を行い、正しい奏法や、曲想を工夫して表現することを指導する。 ・全員で演奏した後は、ペアで聴き合ったり、グループで表現方法が曲想に合っているか意見を出し合う活動をし、児童同士の関わりを大切にする。	
図工	・造形活動全般に意欲的に取り組み、友達とも楽しく関わりながら活動することができる。 ・想像力を働かせ、自分の思いを柔軟な方法で表現することに自信をもてない児童もいる。		・造形的なよさや、美しさ、表したいことや表し方について考える力を付ける。 ・心や体を使って、触れたり感じたりする体験や、人との関わりを通してよさや価値を実感する活動を重視する。	・感じたことや考えたことを言葉にして共有する時間を確保する。 ・造形遊びなどの活動を通して、手や体全体の感覚を働かせて表し方を工夫することができるようにする。	・周年行事にからめて全校で一つのテーマに取り組んだり学校キャラクターを考えたり活用したりすることで学校に対する愛着心を育てることができた。 ・児童の交流から活動の幅を広げさせる時間を設定し、個々の表現がさらに深めていけるようにする。	
特支						

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。